

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270500368		
法人名	特定非営利活動法人 トライアングル・サークル		
事業所名	特定非営利活動法人トライアングル・サークル グループホームたんぼぼの家		
所在地 (電話番号)	長崎県大村市東野岳町1800-2 (電話) 0957-55-9292		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月2日	評価確定日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造スレート木平屋造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中澤病院、長崎医院、祐田ひとし歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街を抜け少し車を走らせた自然あふれる野岳湖の、近くの住宅地の一角にホームは建っている。運営者である理事長は、地域の方だけでなく野岳に遊びに来る人々やボランティアの人々、家族の方々といつまでも気軽に触れ合える「家」を目指し、常に「共生」を考え子育て支援事業にも力を注ぎ、人生の始まりから終わる時までの支援を考えられ、結婚式などの冠婚葬祭もホームで行われている。「介護ばかりに目が向く傾向にあるが、安心・安全があつてはじめて安心して暮らせる家は成り立つ」と考え、理念以外に「おおらかに、こまやかに、さりげなく」と三訓を掲げ、利用者が「自分の家」として暮らせる環境を整えるべく、職員一同が努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 薬の副作用と服用後の症状の変化について資料を添付し、定例会で勉強を行い薬の変更があつた時には看護師から申し送りを受ける等、改善に取り組んでいる。個別の具体的な介護計画の作成については現在も継続中である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が自己評価の項目1つ1つについて説明し、各職員に聞き取りしながら管理者・計画作成担当者がまとめた。自分達のケアの現状を見直す為に、評価を行なう事を説明し積極的に取り組んでいる。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生委員より地域の子供達との交流について意見があり、育成会の働きかけを通じて小学生と入居者の交流の開催に向けて取り組み中である。入居者の声を反映できるように会議を進めていくことが大切、ホームの行事を会議に重ねてみては等の意見に対し、敬老会を会議に換えて会議のメンバーに参加して頂いたこともあり、継続して入居者が参加できる方法などを検討中である。運営推進会議を行なう事によって市からの情報も得られ、大変参考になると実感しており前向きに取り組んでいる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 暮らしぶり等について担当職員が毎月「たんぼぼだより」で報告し、家族の来所時に管理者や職員が、個々に合わせてお話し「何か他に聞きたい事はないですか」とお聞きしながら、ご要望・ご意見を頂く事も職員と話し合い、家族の要望等に少しでも近づけるようにし、次回お会いした時に直接お伝えしている。管理者が交代する場合には「たんぼぼだより」に挨拶文を同封して、ご挨拶させて頂いている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 高校・幼稚園の運動会の見学や近隣公園での新茶祭りへ、買物に出掛け友人に会ってお話する等している。餅つきに近隣の方に参加して頂き、近所の方へお餅を配ったり、お返しに干し柿やお菓子を頂くなどの近所付き合いもできた。お茶の先生にボランティアで来て頂きお茶会を開いたり、小学生にホームへ来て頂けるよう育成会や民生委員を通して依頼する等、地域の方と接する機会作りをしている。近所の商店では利用者も顔馴染になっており、利用者一人で外出している時には連絡して頂ける。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に理事長が「地域の中で」という視点で、生まれて最期の時間を終える迄の時を、「ゆったりと、自分の家のように、地域の中で、その人らしく安心して暮らせる環境を整えていきたい」と思いを込め「ゆっくりと・自分らしく・共に暮らす」という理念を作った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念の一言一言を心に刻みながら唱和し、入居者の繰り返しの言動への対応方法や情報交換の際等、気になる時に理念を意識し互いに注意しあっている。バタバタしている時や職員本人が落ち着かない時に、心の中で穏やかになるよう理念を唱和・反復しながらケアしている。	○	定例会議や毎日のカンファレンスの際に、理念について話をする時間を作り、ケアの時にも常に理念を意識し更なる向上につなげたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高校・幼稚園の運動会の見学や近隣公園での新茶祭り、買物に出掛け友人に会ってお話する等している。餅つきに近隣の方に参加して頂き、近所の方へお餅を配ったり、お返しに干し柿やお菓子を頂く等の近所付き合いもできた。お茶の先生にボランティアで来て頂きお茶会を開いたり、小学生にホームへ来て頂けるよう育成会や民生委員を通じて依頼している。ADLの低下等により入居者が地域活動に参加する事が出来ていない。	○	隣接のホームと合同で花見を計画し、近隣の方や独居の方にも声かけする等開催に向けて準備中である。地域活動へ入居者が参加できる方法等を検討される事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義は理事長はじめ全職員が理解し、自分のケアの現状を見直す為に評価を行なう事を説明し、積極的に取り組んでいる。昼休みの時間を利用し管理者が項目1つ1つについて説明し、各職員に聞き取りしながら管理者・計画作成担当者がまとめた。前回の外部評価結果に基き全職員で検討し、個別の具体的な介護計画や服薬の支援について、勉強会を行う等改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者に積極的に参加して頂けるよう会議の中で、開催日時について話し合い奇数月の第4金曜日と決め次回の議題と開催案内を郵送している。前回の外部評価の結果を報告し、今回の外部評価の実施予定も報告している。民生委員より地域の子ども達との交流について意見があり、育成会の働きかけを通じて小学生と入居者の交流の開催に向けて取り組み中である。入居者の声を反映できるように会議を進めていくことが大切等の意見を頂いている。	○	敬老会の時に会議を重ね会議のメンバーに参加して頂いたこともあり、入居者が会議へ継続して参加できる方法等ホーム内で検討中である。議事録に発言者の記名や議事録の閲覧等を行う事で、家族が積極的にホーム運営に関する事にもつながると考えられ、出席者のご意見も頂きながら検討される等、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者へは介護保険の認定申請手続きの他、グループホーム協議会でお会いした時に、ホームの現状を伝えたり相談したりすることもある。今後の生活について入居者や家族の方と、保護課の方に相談に行ったりホームに来て頂く等の情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来所時に管理者や職員が暮らしぶり等について、お話し「何か他に聞きたい事はないですか」とお聞きしながら、家族が知りたい事を把握し繰り返しお話しして、個々に合わせた報告をしている。暮らしぶり、健康状態、金銭管理、職員の異動等を担当職員が、毎月“たんぽぽだより”で報告し来所時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり家族の来所時にお話しをする中で、ご要望・ご意見を頂く事も職員と話し合い、家族の要望等に少しでも近づけるようにし、次回お会いした時に対応策を直接お伝えしている。市や国保連等の相談窓口にも相談を寄せることができる旨を入居時にお伝えしているが、繰り返しの説明は行なっていない。	○	ご意見等を運営に反映させる為に書式を検討中であり、頂いたご意見・ご要望の対応や取組状況についてお会いして、お伝えするだけでなくホーム便り・お手紙等で報告し、ご意見を頂いたご家族以外の方にもホームの取組状況をお知らせする事で、更に活発なご意見を頂く事にもつながっていくと考えられ、今後の取り組みに期待してい
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員体制に必要な場合系列施設内での異動はあるが、それ以外の定期的な異動は行わない。職員の休みの希望には極力応じ、併設の施設との合同や事業所単独の食事会等を行い、職員親睦の場を設け職員の離職を最小限に抑えるよう取り組んでいる。職員の交代時や新規職員には管理者が情報提供・指導を行い、先輩職員と一緒に勤務シケアを行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が外部研修に参加し定例会で伝達講習を行い、資料を配布し情報を共有している。服薬支援やケアについて「こんな状態になったら報告する」等、より具体的に報告事項や内容・タイミング等を示し質の向上に積極的に取り組んでいる。職員個々と話し個別の研修等の方向性はあるが、職員の立場・経験・習熟度に応じた職員毎の育成計画は作成していない。	○	新たな視点や協力体制の強化に為の入居者の情報交換等を含め隣接のホームとの交換研修を予定している。職員個々と話し合い経験・習熟度に応じた目標や育成計画を立てる事で、自己研鑽につながっていくと考えらる。今後の取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に管理者が出席し、協議会が計画した職員の交換研修の参加や、電話・メール等での日常的な情報交換・相談等、積極的に交流に取り組んでいる。協議会の“各駅停車”にできるだけ職員が出席できるよう勤務調整をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者・介護支援専門員が、ご自宅や病院を訪問し本人・家族とお話し、顔馴染みの関係を作ったり本人・家族、医師や看護師から情報収集を行なっている。入居後は家族や友人、時にはご近所の方を連れて来て頂く等、顔馴染みの方に頻りに訪問して頂き、入居者が納得し安心して生活ができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	魚料理の時に「他の調理方法はないですか」「餅つきはどうしていましたか」等、教えて頂く場面を積極的に作り学ぶ事も多い。普段の会話や相談も構える事なく、家族のように自然で体で接する事を常に意識し、今此処に居らっしゃる事が支えになっていると職員は感じている。勤務が終わった時に「お疲れ様、また来てね」の言葉をかけて頂き、一日の疲れも飛ぶような思いと仕事の励みにつながっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや会話の中から、一人ひとりの思いを汲み取ったり、お金の心配や紙収集をされる時にはその方に合わせた言葉をかけ、その時に安心し納得されるように関わっている。センター方式を活用し出来そうな事を一緒にしたり、行動や表情を日頃の様子と比べ職員と話し合い気付いた事や、家族からお聞きして少しずつ把握し思いに近づけるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの状況・思い・生活習慣等を踏まえて作成しているが目標が介護者の思いになっていたり、地域で暮らす視点が盛り込まれていない方がいる。現在行っているケアが全て介護計画に記載されている時と、ポイントのみになっている時もある。入居者・家族と話し合い、かかりつけ医から助言を頂いているが、家族は「おまかせします」と言われる事も多く、家族の意見や気づきが反映できていないという思いが強い。	○	入居者の楽しみの支援として取り組まれている事や地域との関わり、一人ひとりの状況や思いを踏まえた『その人らしく暮らす』ための目標を、計画に盛り込む事で個別・具体的な計画となっていく。職員のケアの統一を図る為にも、手順書を作成し「この事はどうですか」等、ご家族に具体的に示す事で、率直なご意見を頂ける事にもつながっていくと考えられ、今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録を基に特に要望や状態変化が見られない場合でも、全入居者の介護計画を毎月の定例会で検討している。入居者・家族の要望・状態に変化が生じた場合は、設定した時期の前でも変更を行い、新たな気づきや意見が出された場合、それらを計画に反映させる為に臨機応変に計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師と常に連絡が取れる状況で、必要に応じて医師への相談や緊急時の指示を含めて24時間対応が可能と、医療連携体制は十分に整っており、入院時は入居者に関する情報を医療機関に提供したり、医師からの情報を得る事により早期退院につながっている。歯科・眼科や検査時の通院介助や送迎、以前からの馴染みの理容室やお墓参り等、柔軟な支援を行なっている。	○	認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして、入居されている方だけでなく地域に対するご支援に関して、必要に応じて理事長と話し合い、地域の高齢者も安心して暮らしていけるようなサポートを検討していきたいと考えられており、今後の取組みに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族の希望をお聞きし、同意と納得の上で協力医療機関へ変更され、月に2回定期的な受診や往診して頂いている。ご家族に同行して頂く事もあるが基本的に職員が通院介助を行い、歯科受診時は歯科医師がホームまで迎えに来られる。受診結果は特に変化がない場合も速やかに報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針を入居時にお伝えし、利用者・家族の意向を把握し同意を得ている。入居者に状態変化があった時や家族の状況が変わった時等、利用者・家族・かかりつけ医・協力医療機関等の関係者、及び職員で対応について繰り返し話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「○○さん」と名前でお呼びする時もあるが、目上の方に対する尊敬の念を持って接し、排泄介助・失禁時に「トイレに行きましようか、おしっこ行きませんか、ちょっと濡れているみたいですね」と小声で声かけしている。入居者の繰り返しの言動への対応方法を職員間で統一したり、記録物の取扱いや利用者に関する話しを外部でしない等、個人情報の保護に関して全職員が周知徹底している。	○	排泄介助や失禁時の対応等は自尊心・羞恥心に配慮し、心がけて小声で行なわれているが行為そのものを表現するのではなく「ちょっといいですか」等の表現に変える等言葉かけを意識して、さりげなく行なわれるよう今後の取組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるよう食事やおやつ等の声かけを行ったり、様子をみながらホールに出て来られ、その場で一緒に過ごせるよう支援している。希望を表さず座りっぱなしになりがちの方には、常に職員から話しかけるよう心がけ紙芝居等を聞いていただく等、他の利用者が集まっている場に居合わせるように支援をしている。家事等にかかり時間がかかる方についても、本人の体調やペースに配慮し本人の気持ちを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや下膳、食器洗い、食器拭き、テーブル拭き等お力を發揮して頂いている。旬の食材や郷土食の煮ごみを採り入れたり、外食や寿司等の出前を取り、職員も同じ食卓に着き必要な介助を行いながら、楽しい雰囲気ですべてが楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数はある程度決めてはいるが、毎日の入浴も可能でほぼ希望に対応している。体調に無理のない範囲で入浴している時間や順番等の好みに合わせ、羞恥心へ配慮し1人ずつ入浴して頂いている。入浴を嫌がる時は時間をずらして再度声かけしたり、家族から声かけて頂いたり、音楽を聴きながらシャワー浴や入浴して頂いている。菖蒲湯やゆず湯など昔からの風習で入浴を楽しんで頂いている。	○	本人が好きで心地良いと感じる曲をかけたり、家族の協力も得ながら気持ち良く入浴していただける場面を探し、更に入浴を楽しんで頂けるような支援を期待していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞紙のゴミ箱作り、毎朝の新聞取り、折込みチラシのチェックやカーテンの開閉、入居者が不意に動いた時に職員にお知らせ頂いたり、花の水遣り等して頂いている。タバコは事務所で管理し玄関前の椅子に座って喫って頂いている。ケガを懸念して手を出し過ぎる時もあるが、その方の楽しみに合わせた援助を心がけ、歌が好きだった方が歌を忘れられ、ずっと童謡を聞いて頂き口ずさむようになった等楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力を頂きお墓参りや行きつけの理容室に行かれたり、買い物や近くの公園への滝見物、市内の公園へ散歩に行く等戸外で過ごして頂けるよう、希望をお聞きして個別に対応している。帰りたいとご希望があった時に、入居前に商売をされていたお店まで連れて行った事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口と居室のベランダ側の窓、19:00～8:00迄の防犯上の施錠を行なっている以外は自由に出入りができる。職員が作業する場所や立つ向き工夫、職員で声をかけあったり入居者が落ち着かなくなる時間帯や傾向、原因を予め把握し、玄関を開けるとチャイムが鳴るようにし対応している。入居者が1人で出掛けられた時は後ろからついていったり、近所の商店の協力も得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生を想定した避難訓練を全職員、入居者、消防署、隣接事業所職員が参加し年に2回実施している。屋根の赤色灯とサイレンを鳴らし、非常事態を地域の方に通報する体制になっており、避難時の入居者の見守り等お願いすると共に、地域に居住している職員や家族、併設施設からの協力も得られる。乾パン・缶詰・飲料水の準備はされており、併設施設から毛布等を手配できるようにしており、今後も更に充実に向けた取り組みを継続していく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせて味付けを変えたり、飲み物の種類を選べるようにし、食事量や飲水量は必要量が摂取できているかを、だいたい確認して把握し必要時は記録している。カロリーや栄養バランスは栄養士の職員が月に1回定期的にチェックし助言したり、解らない事を尋ねている。食が進まない入居者に家族の希望もあり、栄養補助食品やスポーツ飲料を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花や行事の飾り付けをし、入居者が季節を感じ取れるようにしている。ホールの天窓にステンドグラス調のシールを貼る事で陽射しを和らげ、常に温湿度計のチェックを行い温度調節している。和室には座椅子や飾り棚があり、家庭的な雰囲気が入居者も寛いで座られている。トイレや玄関等に炭を置き消臭剤を使用したり換気をする等、臭いや空気の濃みに気を付け不快な臭い等がないよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しお嫁入りの時の鏡台やダンスを持ってこられたり、藤家具、テレビ、ソファー、家族の写真、ぬいぐるみ等入居者が使い慣れた物・お好きな物を持ってきて頂いている。作り付けの大きな収納スペースがあり物の大きさや量も制限がなく、エアコン・カーテン・照明・ベッドは備え付けであるが、入居者・家族の要望等に合わせてベッドのサイドレールに小物入れを付けたりし、照明も光の強さを調整できる等の工夫をしている。		